

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	オーストラリア	
学校名	静岡聖光学院高等学校	氏名	夏目徳	学年	1年

私はオーストラリアのクイーンズランド州で静岡県内の過疎化が進む地域で、持続可能な医療システムを構築するために必要なことは何か?について探求しました。広大な国土のオーストラリアでは、十分な医療を受けられない地域が点在しています。そのような地域で暮らす住民のために、都市部にある大学病院などとの間で先進的な僻地医療が取り組まれています。静岡県でも過疎化や医師不足等に伴って、伊豆半島や山間地でこれまでの医療が受けられなくなってしまう地域があり、オーストラリアでの先進的な取組や地域住民の医療に対する考え方などを現地で調査し、日本の医療体制と比較、考察することで、医療困難地域が抱える課題解決に関する知識や理解を深めました。

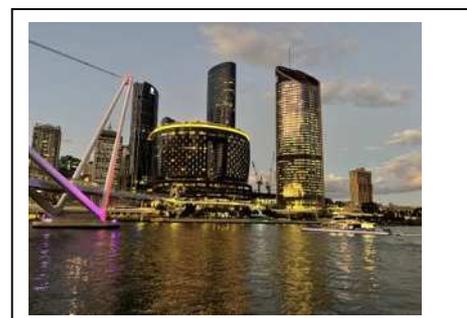
探究活動から分かったこと。

- Q. オーストラリアでは実際にどのような形でへき地での診療や病院への搬送を行っている？
- A. 専門のドクター半年～数年単位で交代しながら常駐していて、都市部への搬送をする場合はドローンやヘリ、飛行機などを使う。長距離搬送専門の航空事業も存在(Royal Flying Doctor Service)。
- Q. へき地に医療従事者を送り込むためにはどのような活動を行っている？
- A. 専門のトレーニングセンターで研修を行い、それ用のシナリオも用意している他、へき地で活動を何年か行う場合の優遇制度や補助金などを出している。
- Q. 医療体制を維持するために必要なことは？
- A. 官民共同で医療従事者の継続的な支援や設備の供給や予防接種などの無償化などでそもそも病気の人を作り出さないようにもしている。

(クイーンズランド州ブリスベンのグリフィス大学→)



(留学したクイーンズランド州ブリスベンの景色→)



ブリスベンの語学学校にホームステイしながら通学し、語学学習と並行して医療に関する調査を行いました。例えば、ホームステイ先の家族や語学学校の先生にアンケート調査を実施。グリフィス大学のオープンキャンパスに参加し、先進的な医療研究を視察したほか、現地の図書館などを訪れて調査を行いました。さらに、大学関係者との意見交換を通して、オーストラリアの僻地医療の現状や課題、解決に向けた取り組みについて理解を深めました。

アンケート調査や大学でのインタビューは良く取り組めたと思います。ホストファミリーや先生などに話を聞くこともできました。

僻地に実際行くことはスケジュールなどの関係上行くことができなかったのですが、良い情報をたくさん得ることができました。

今後は医療従事者となって、それまでに得た知見を生かして過疎地などの医療困難地域における医療に貢献しようと考えています。地域の医療現場で働き、各地の医療困難地域を飛び回ることで、多くの人々に質の高い医療を提供していきたいです。

(卒業式の最終日本語学校にて撮影→)



(資料を調査したブリスベン市内の図書館→)

